



病院で活動させてもらった。プノンペンには、建設ラッシュのようであちこちで高層ビルが建設され、おしゃれなカフェやレストラン等も多くあり、主要な道路は頻繁に渋滞していた。決して交通マナーが良いとは言えないプノンペンの通りを横断するのは、私に課された最初のミッションだった。数週間後、何とか横断できるようになった頃、任地に赴任となったのだが、そこは道路の真ん中も歩けるのではないと思うくらい、のんびりした所だった。(写真②) 協力隊の活動は、話し出すとこの紙面では終えられないくらい話してしまうが、一言で言うと「ゆったりした時の流れと大きなパワー・勢いの共存を感じる」時間だった。一年中、日本の夏のような気候のカンボジア、暑さのせいもあるのか、何だかのんびり・ゆる～い感じもあるのだが、何かをやるとなった時のパワーと勢いには、何度も驚かされた。活動の一つとして、5S-KAIZEN活動を導入したところ、当初の私の予想を大きく裏切り、病院内で一種のブームのようになった。ほとんどのスタッフが5Sという言葉自体聞いたことのない状態からのスタートであったが、目新しさからか、視覚的にも理解しやすい手法が功を奏したのか、私の拙い英語とさらに微妙なクメール語（カンボジア語）の説明で伝えられたのはわずかだったように思うが、そこからスタッフ同士・部署間での相乗効果が大きな勢いとなったのではないかと感じている。興味なさそうにしていたおじさん（ある病棟の師長）が、手の空いた時間にナースステーションの大掃除をしたと聞いた時には、そのギャップと師長として病棟の問題に率先して取り組む姿勢に、私



写真3 活動していた州病院(一番新しい建物)

も勇気づけられた。どこかの病棟が病室やベッドの大掃除を始めると、連日、次から次へと他の病棟も掃除している様子は、とても喜ばしいことであり、その連鎖反応が興味深かった。何よりも、どこかを整理したり、何か新たなことに取り組もうとしたりしているときの、スタッフの笑顔は今でも忘れられない。そして、このブームが去ることを心配したが、5S-KAIZEN活動導入して2021年で5年目になるが、時折病院のSNS等で活動が共有されているので、まだひとまず余波は残っているようである。今後、機会があれば、活動を続けている正直な気持ちを聞いてみたいところだ。

最近(執筆時 2021年5月中旬現在)では、カンボジアでも新型コロナウイルス感染症の大規模な市中感染が発生し、首都を含む複数の地域でロックダウン等の対策が取られている。私の活動していた病院も陽性者対応に追われているようである。そこで働く友人・知人たちを思うと、カンボジア・日本も含めて世界中で多くの人々が苦しめられているこの感染症の流行状況が、少しでも早く好転することを願わずにはいられない。今は、自分のいる場所で自分のできることをするのみであるが。

まだまだ国際協力の道に足を踏み入れたばかりであるが、これまでも・これからも、どこか不思議なつながりや巡り合わせを大切に、いつか、ゆったりした時の流れを持ちながら、何かをするときには常に全力で取り組める、そんな人になれたらと思う。その時には、またカンボジアにいるのかもしれない。



写真4 なぜか連日みんなベッドを洗い出す